



糖尿病に強くなる！ 療養指導のエキスパートを目指して

榎田 出 編

B5 頁 224 2015 年

本体 2,600 円＋税

[ISBN978-4-260-02102-9] 医学書院刊

評者 鞍田 三貴

武庫川女子大准教授・食物栄養学

私が管理栄養士として病院に勤務し、糖尿病教室や栄養食事指導を始めたのは 1990 年頃です。当時の糖尿病教育入院は、40～50 歳代の肥満を伴う糖尿病患者さんが多く、食品交換表の勉強などが組み込まれていました。糖尿病療養指導は、多職種によるチームで行われておらず、栄養・食事指導は食物栄養のみに着目した指導型教育であったように思います。

しかし時が流れて今、わが国は世界に類を見ないスピードで高齢化が進行し、超高齢社会に突入しました。その中で、医療においては、単に長く生きるのではなく、健康を維持・増進しつつ寿命を延ばす取り組みがなされています。これを実現するために、医療従事者には、指導教育型から脱却し、セルフエフィカシー(自己効力感)を高める技術が求められます。本書は、そんな社会のニーズに合わせて、糖尿病の基本から、ライフステージごとの生活指導に留まらず、心理面とそのケア、行動変容を促すアプローチなどについて

でも述べられています。また、災害時の対策と対応から服薬アドヒアランス、糖尿病とがんなど、教科書にはみられないコラム記事がとても新鮮です。

本書は、食事・運動療法の実践、薬物療法などの糖尿病自己管理に必要な事柄に加え、要所に挙げられた事例では高齢者特有の問題にも着目しています。私は今、地域医療を担う開業医院と連携し、地域の糖尿病患者さんへの栄養支援を行っていますが、老老介護、独居高齢者の増加により、今までの食事指導では通用しない難しさを感じています。糖尿病のより良い治療のためには、患者自身が自己管理を継続することが必要ですが、高齢者にみられる認知機能障害は糖尿病治療を妨げる最大の要因です。

われわれ療養指導者は、糖尿病を取り巻く環境の変化に素早く順応する力を養うことと、「糖尿病に強くなる」ことが必要です。本書はそれに大いに役立つ参考書であると思います。